

112

地域文化発信事業

能登半島宇出津発祥 伝承娯楽「ごいた」に触れて!

- 開催日：令和5年10月28日(土)～10月29日(日)
- 開催会場：能登町立宇出津公民館(コンセールのと)

能登
エリア

能登町



◆実施状況

「ごいた」は、4人で盤を囲み、将棋の駒とよく似た竹製のコマを使って、2人1組で相手方と得点を競い合う頭脳ゲーム(ボードゲーム)で、能登町の宇出津地区から全国各地に広がっていきました。

この「ごいた」の魅力を県内外に伝えるため、2日間にわたり、全国交流大会とシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、ゲーム研究家の草場純さんが、ゲームと地域振興をテーマに講演を行った後、能登ごいた保存会の洲崎一男会長ほか、東京支部長や大阪支部長など7名によるパネル討論も行い、「ごいた」との出会いや魅力を語っていただきました。

このほかにも、初心者大会や、会場内に全国7支部がごいた普及に取り組んだ足跡をパネル展示により紹介するなど、全国からの参加者は、能登の人との触れ合いも楽しみながら、さらなる交流を深めていました。

【プログラム】

- 10月28日(土)13:00～ 「ごいた」全国交流大会
- 10月29日(日) 8:45～ シンポジウム「地域に根付いたゲームが地域を元気にする」
- 10月29日(日)13:30～ 「あつまれ初心者!!ごいた大会」

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能登町、能登町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能登町実行委員会

113

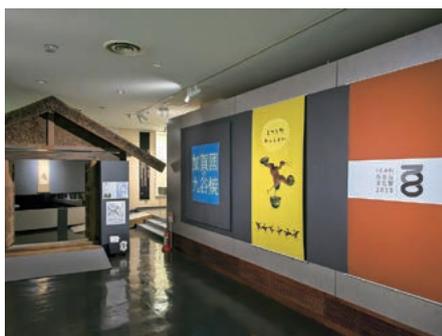
地域文化発信事業

特別展「加賀国の九谷焼」

- 開催日：令和5年10月7日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：小松市立博物館、小松市立錦窯展示館

加賀
エリア

小松市



◆実施状況

加賀国の九谷焼は、色あざやかな上絵付が特徴です。政治的安定のもと文化的成熟期を迎えた江戸後期、色彩へのあこがれが強い時代にあって、九谷焼の陶工が全国に招かれたことで各地に九谷焼の影響を受けた焼物が誕生しました。

本展では、その焼物の中から彦根の湖東焼、摂津の三田焼を九谷焼と比較展示しました。展示は花坂陶石を見出した本多貞吉画像にはじまり、加賀の陶工が各地に赴いた足跡をたどることで、全国的なつながりを俯瞰しました。

また、2023年は「上絵付(九谷焼)」の分野で「助成の措置を講ずべき国の無形文化財」に選定された初代徳田八十吉の生誕150年という記念の年でした。初代の作品だけでなく、その色を受け継ぎ「彩釉磁器」という上絵の新しい分野を確立させた三代の作品に九谷の色絵の昇華をご覧いただきました。

【イベント】

11月5日開催のギャラリートーク「モデルとコピー ～九谷焼を写した関西のやきもの～」では、中之島雪香美術館学芸課長の梶山博史さんをお招きして九谷焼の影響を受けた関西の視点から講演をいただき、参加者は理解を深めました。

11月19日、20日開催のイベント「初代八十吉生誕150年 記念祭」では、初代の音声記録を四代八十吉さんと聴き、受け継がれる色についてお話をいただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、小松市博物館展覧会開催委員会、小松市立博物館、小松市立錦窯展示館



地域文化発信事業

114 加賀立国1200年記念特別展「加賀国府と江沼・能美」

加賀エリア
小松市

● 開催日：令和5年10月14日(土)～11月26日(日)
● 開催会場：小松市立加賀国府ものがたり館



◆ 実施状況

弘仁14年(823年)に加賀国が誕生してから今年で1200年の節目を迎えたことを記念し、加賀国府と古代の江沼・能美の歴史を紹介する特別展を開催しました。市内遺跡出土品のほか、古代の江沼・能美地域にあたる加賀市や能美市の遺跡出土品を解説パネルとともに多数展示し、国府誕生の歴史を体感していただきました。延べ1,317名の来場者があり、アンケートからは地域の文化に親しみ、歴史にふれることで、高い満足度を得た様子が見え、市内外に加賀国府の魅力を発信することができました。

なお、期間中には、加賀国府ゆかりの地を巡るウォークラリーを実施し、展示と合わせて加賀国府の立地や景観、古代ロマンを体験してもらいました。

【展示内容】

加賀国誕生を語る上で欠かせない江沼と能美の2つの地域勢力について、出土品を交えて解説しました。前半部分は加賀国誕生前の江沼と能美の勢力圏の違いを、白鳳期寺院の分布や瓦生産の状況から紹介しました。後半は、加賀国誕生と能美分郡が江沼の勢力を減じるための策であったことや、加賀国誕生をきっかけにした新たな情勢に迫りました。江沼と能美の南加賀地域が、古くから一体的に歴史を歩んできたことを再確認し、今後の情報発信を考える上でも意義のある展示になりました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、加賀立国1200年祭実行委員会

地域文化発信事業

115 加賀立国1200年記念「全国国府サミットin小松」

加賀エリア
小松市

● 開催日：令和5年10月21日(土)～10月22日(日)
● 開催会場：サミット：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら、見学会：市内展示施設、国府関連史跡ほか



◆ 実施状況

加賀立国1200年を記念して、全国72の国府所在自治体に呼びかけ、小松市をはじめ、全国から12の国府所在自治体の代表が集結したサミットを2日間にわたり開催しました。

サミットでは、各地の国府や歴史の魅力をPRするとともに、歴史文化資源を通じた地域づくりの在り方など、古代加賀国や国府に対する認識を深め、歴史文化資源への保護意識を高めることができました。

また、全国16の自治体が出展した国府展も開催し、全国の歴史ファン、県民、市民とともに、国府を通じた歴史文化の学びと交流の場を創出しました。

さらに、国府所在小学校児童から「国府こども未来メッセージ」も発表され、次代を担う子どもたちの文化財保護意識醸成の機会にもなりました。

2日目の現地見学会では、加賀立国1200年を機に、国府関連施設整備を行ったこともあり、他県参加者の反応を見ることができ、小松市が推進する文化観光の実証実験の場ともなりました。

【プログラム】

- 10月21日(土) 歴史絵巻芸能、全国国府首長サミット・共同宣言、加賀立国1200年記念フォーラム、国府こども未来メッセージ
- 10月22日(日) 国府現地見学会(加賀国府ものがたり館、府南山歴史公園等)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、加賀立国1200年祭実行委員会

116

地域文化発信事業

小松九谷茶会

- 開催日：令和5年11月3日(金・祝)
- 開催会場：仙叟屋敷ならびに玄庵、市民ギャラリー「ルフレ」、小松市公会堂

加賀
エリア

小松市



◆実施状況

小松で活動する3流派(小松裏千家茶道会、表千家小松松晴会、煎茶松月流)が一挙に茶会を行い、約250名の参加者が地元作家による九谷焼の茶碗で、地元和菓子店の創作和菓子とともに、小松の茶の湯を楽しんでいただきました。

当日は、参加者を午前部と午後部それぞれ3班に分け、各会場をまわりながら、3流派すべての茶の湯を味わっていただきました。

取り合わせには、九谷焼の茶碗だけでなく、様々な九谷焼作家によるお道具が盛り込まれた、九谷尽くしの茶会となり、鮮やかな色彩に見入っていた参加者からは、「ゆったりとお茶をいただくことができ良かった」「小松にこのような素晴らしい茶室があると知らなかった」等の声をいただきました。

【プログラム】

- 11月3日(金) 午前部、午後部 各流派6席計18席
 裏千家席「仙叟屋敷ならびに玄庵」
 表千家席「市民ギャラリー「ルフレ」」
 松月流煎茶席「小松市公会堂」

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、小松市民茶会実行委員会

117

地域文化発信事業

こまつ歌舞伎・秋の祭典～勸進帳特別企画～

- 開催日：令和5年11月5日(日)
- 開催会場：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら

加賀
エリア

小松市



◆実施状況

小松市には、江戸時代より脈々と受け継がれてきた「曳山子供歌舞伎」と「安宅の関跡」に因んだ歌舞伎「勸進帳」を子ども達が上演する子供歌舞伎があります。

今回、「勸進帳特別企画」では、小松市立松東みどり学園が「勸進帳」を上演しました。弁慶が何も書かれていない巻物を勸進帳として読み上げる見せ場など、生徒たちは堂々と演じました。

また、今回、国民文化祭にふさわしい特別ゲストの十代目松本幸四郎丈に歌舞伎舞踊素踊り「流星」を披露していただいたほか、古典芸能解説者葛西聖司さんのトークショーでは、「歌舞伎のまち小松」の歴史と伝統、そして歌舞伎の魅力などについて語っていただき、満員の会場は大いに盛り上がりました。

【プログラム】

- 司会：葛西聖司(古典芸能解説者)
- 1 垂井曳軸保存会 「寿式三番叟」
 - 2 口上
 - 3 小松市立松東みどり学園 「勸進帳」
 - 4 十代目松本幸四郎 歌舞伎舞踊 素踊り「流星」
 - 5 十代目松本幸四郎 歌舞伎のまちトークショー

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、こまつ歌舞伎・秋の祭典実行委員会



地域文化発信事業

118 奥の細道トークショー

● 開催日：令和5年11月19日(日)
● 開催会場：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら

加賀エリア
小松市



◆ 実施状況

奥の細道トークショーでは、テレビや書籍で俳句の才能を開花させているお笑い芸人フルーツポンチ村上健志さんと、情報番組「Nスタ」で人気の井上貴博アナウンサーをゲストに、小松市出身のアナウンサー西尾知亜紀さんの司会進行により、俳句にまつわるトークショーを行いました。

前半は、村上さんが小松市の松尾芭蕉ゆかりの地を巡った映像を見ながら、ロケの感想や俳句に興味を持った理由のほか、俳句とお笑いの関係性等を語っていただきました。

後半は、村上さんと井上さんが、作成した小松に関する俳句を発表したほか、来場者が当日設けられたお題に沿って投句した俳句10句に対する感想も語っていただきました。

そして最後に、若い世代に俳句に親しむ方法や、俳句作りのコツ等も紹介していただくなど、約800名の参加者が楽しみながら俳句文化に触れる機会となりました。

なお、当日は、絵や写真とあわせて句を詠む「小松ビジュアル俳句コンテスト」の表彰式も行いました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、「奥の細道ゆかりの小松」PR委員会

地域文化発信事業 / 2023ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭連携事業

119 小松文化の祭典 リードこまつ2023

● 開催日：令和5年11月25日(土)～11月26日(日)
● 開催会場：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら

加賀エリア
小松市



◆ 実施状況

小松市文化協会加盟団体および市内の文化活動団体など41団体548名が舞台と展示により、日頃の成果を披露しました。今年は国民文化祭事業として、文化・伝統芸能団体による発表とともに、小松市国際交流協会による「世界の民族衣装コレクション」(ファッションショー)を初めて開催しました。

このファッションショーは、「セレブレーション」をテーマに、13カ国の民族衣装が音楽や映像に合わせて華やかに披露され、様々な民族衣装を見て世界の文化を学ぶとともに、舞踊や歌舞伎・合唱といった小松の文化に触れていただくことで、国民文化祭ならではの多様な文化に親しむイベントとなりました。

会場には、外国の方もたくさん参加されており、2日間の来場者は1,899名となり、伝統芸能をはじめ、和と洋のジャンルを楽しんでいただくとともに、国際色豊かな文化の魅力も体感いただく機会になりました。

【世界の民族衣装コレクション プログラム】

11月26日 13:00～14:00 大ホール
オープニング ピアノ演奏(小松市ピアノ協会)
(登場順)

1. 日本(民謡山本会)
2. ニュージーランド
3. 韓国
4. フィリピン
5. ベトナム
6. ネパール
7. インド
8. ミャンマー
9. 中国
10. インドネシア
11. ブータン
12. シンガポール
13. ブラジル

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、小松市文化協会

120

文化団体事業

全国漢詩の祭典 百万石漢詩文化—絢爛と継承—

- 開催日：令和5年10月28日(土)
- 開催会場：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら 大ホール

加賀
エリア

小松市



◆実施状況

全国から応募のあった漢詩の表彰式を行うとともに、加賀藩ゆかりの漢詩文化の魅力を楽しむことができるイベントを開催しました。

漢詩の応募形式は「七言絶句」で行い、全国から373首が集まり、その中から、特別賞13首、秀作14首、U23奨励賞優秀賞1首、U18奨励賞優秀賞1首、入選24首、U23奨励賞入選2首、U18奨励賞入選1首が選ばれ、当日、受賞者に賞状が授与されました。審査委員長の鷲野正明全日本漢詩連盟会長が受賞作品の選評を行い、文部科学大臣賞受賞の田沼裕樹さんが受賞者を代表し、謝辞を述べました。

次に、金沢学院大学名誉教授の柳澤良一さんが「明治期の知識人(西田幾多郎・高峰譲吉)に見る漢詩文教育の重要性」と題して記念講演を行いました。

また、特別賞を受賞した「春日訪佳人」、「晩春」、「知恩院晩秋」、「曉度」、「讀白山」、「新歳」、「詠赫夜姫」の7作品の吟詠が行われ、来場者は聞き入っていました。

最後に行われた、構成吟『いしかわ百万石漢詩文化—絢爛』では、加賀藩5代藩主前田綱紀公から百万石漢詩文化が華開く様が尺八、詩吟、語り手によって披露され、盛会のうちに閉会の幕を下ろしました。

※文部科学大臣賞受賞作品はP143に掲載

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、小松市、小松市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023小松市実行委員会、全日本漢詩連盟、石川県漢詩連盟

121

地域文化発信事業

北前船と引札

- 開催日：令和5年10月7日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：北前船の里資料館、アビオシティホール、橋立地区会館

加賀
エリア

加賀市



◆実施状況

加賀市で所蔵する北前船主宅に残されていた引札の中から、24点の引札と古文書などの関連資料を展示しました。北前船が寄港地で取引のあった廻船問屋や商店などの引札から、幕末から明治、大正期の世相や印刷技術、各地の船主などを紹介し、あわせて、来場者には「引札をより楽しむためのガイドブック」を配布して、北前船や明治期における当時の世相などへの理解を深めていただきました。

また、関連イベントを通じて、これまで当資料館を訪れたことのない方にも来場を促すことができ、幅広い世代に北前船と引札の魅力に触れていただきました。

【関連イベント】

10月15日(日) アビオシティホール

引札に関する講演会「色鮮やかな広告チラシ「引札」の魅力」

講師：印刷博物館学芸員 山口美佐子

10月21日(土) 橋立地区会館

活版印刷に関するワークショップ

「色のトリッカー北前船「引札」でカラー印刷実験—」

講師：印刷博物館インストラクター 義家和彦
同学芸員 中西保仁

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会



地域文化発信事業

122 科学者の心展

● 開催日：令和5年10月12日(木)～11月21日(火)
● 開催会場：中谷宇吉郎雪の科学館

加賀 エリア
加賀市



◆ 実施状況

この企画展は「科学者の心」をテーマに、石川県加賀市出身の雪の科学者・中谷宇吉郎をはじめ、著名な科学者たちが遺した芸術や文学を通して、科学者たちが何を考えていたかを紹介するとともに、今活躍する科学者たちの研究の紹介や科学者による実験ショーを行い、多くの人に科学の魅力を伝えることができました。開館期間中、2,809名の方々に来場いただき、来場者からは「自然科学にふれあう機会となり、楽しかった」などの声が寄せられました。

【展示内容】

- 中谷宇吉郎の随筆の直筆原稿、直筆絵画
- 日本初のノーベル賞受賞者・湯川秀樹ゆかりの書
- 2003年度イグノーベル賞受賞記念品一式
- 科学者で芸術家でもある「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の紹介
- 科学者で絵本作家でもある「かこさとし」の複製原画
- 北海道大学低温科学研究所の雪氷研究の紹介

【ワークショップ】

「Dr. ナダレンジャーの自然災害科学実験ショー」
10月22日(日)10:00～11:30 / 13:30～15:00
参加者数61名

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、加賀市総合サービス株式会社、中谷宇吉郎雪の科学館

地域文化発信事業

123 深田久弥生誕120年記念 深田久弥と日本百名山

● 開催日：令和5年10月21日(土)
● 開催会場：加賀市市民会館

加賀 エリア
加賀市



◆ 実施状況

加賀市大聖寺出身の山の文学者である深田久弥生誕120年を記念して、深田久弥の功績と日本百名山の魅力を紹介する講演会及び座談会を開催し、満員となる169名の方々に来場いただきました。

山の編集長の愛称でおなじみの山と溪谷社の萩原浩司さんをお迎えし、講演会と座談会では、文学者はもとより、登山家、冒険家としての魅力も語っていただきました。

講演会に先立って、「深田久弥と百名山」俳句大会表彰式も行いました。俳句大会には、一般の部に249名から454句、小中学生の部に108名から112句と、日本全国のみならず、海外からも非常に多くの応募をいただき、多くの俳句作品を残した深田久弥への理解を深める機会になりました。

【プログラム】

- ・「ふるさとの山」俳句大会表彰式
- ・講演会「深田久弥と日本百名山」
講師：萩原浩司(山と溪谷社取締役・「山の日」アンバサダー)
- ・座談会「深田久弥とふるさとの山」
萩原浩司(山と溪谷社)、秋山泉(葦崎白鳳会顧問)、
大久保博(深田クラブ事務局長)、中川博人(日本山岳会員)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、深田久弥生誕120年記念事業開催実行委員会



124

地域文化発信事業

山中節四季の舞鑑賞と芸妓伝統文化の体験

- 開催日：令和5年10月28日(土)
- 開催会場：山中座ホール

加賀
エリア

加賀市



◆実施状況

山中温泉芸妓による伝統的な正調山中節や山中座座員による山中祭り獅子踊りにより、山中節の魅力を発信しました。

最初に、特別出演の宗家藤間流藤間寿師が山中節や邦楽舞踊楽器・小道具について説明した後、事前申込者による楽器や小道具を使った邦楽舞踊体験を挟み、最後は、義太夫 三番叟を披露しました。

当日は約150名が来場し、「邦楽楽器や日本舞踊、山中節の素晴らしさに感動した」「優雅な踊りなど、他にはない体験ができた」という声が寄せられました。

なお、本公演は、県のリーディング事業「加賀宝生能」の加賀公演との2部制で開催したものであり、能楽と山中節を一度に体感できる貴重な機会にもなりました。

【プログラム】

正調山中節、山中祭り獅子踊り、こいこい音頭、芸妓伝統文化の体験
(特別出演)宗家藤間流 藤間寿師による義太夫 三番叟

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、山中温泉旅館協同組合

125

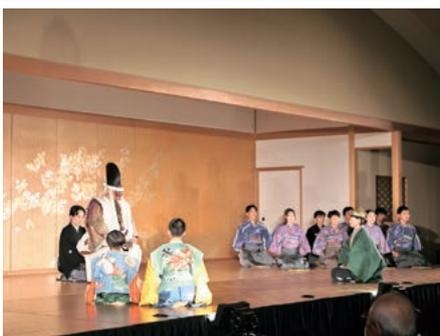
地域文化発信事業

実盛の世界

- 開催日：令和5年11月10日(金)
- 開催会場：アパホテル&リゾート加賀片山津温泉 佳水郷

加賀
エリア

加賀市



◆実施状況

源平時代に活躍した平家の武将 斎藤別当実盛は、源氏の本曾義仲と戦い、片山津温泉近くの篠原で最期を迎えたことから、加賀市にはゆかりの地が多く伝わっています。今回の国民文化祭では、この斎藤別当実盛をテーマに、京都で活躍中の大蔵流狂言方・茂山千五郎家当主・十四世茂山千五郎師が新作狂言「実盛」を創作し、狂言の奥深さに触れてもらう、ユーモアのある素晴らしい舞台で、実盛の世界を表現していただきました。

「実盛」には、一般参加者となる立方3名と地謡8名が、茂山千五郎師のもと稽古を重ねて出演し、本番では、堂々とした演技を見せていました。

また、本公演に先駆けて、茂山千五郎家の山下守之師が上演する狂言のあらすじと楽しみ方を解説し、茂山千五郎家による狂言「太刀奪」も披露いただくなど、来場者には、見ごたえのある楽しい時間を過ごしていただきました。

このほか、実盛公を偲び、片山津の女子生徒にも受け継がれてきた踊り「篠原慕情」が披露されるなど、地域の魅力も発信しました。

【プログラム】

狂言のお話	山下守之
狂言「太刀奪」	茂山千五郎家
踊り「篠原慕情」	加賀市立片山津中学校卒業生 有志一同
新作狂言「実盛」	茂山千五郎、山下守之、一般参加者11名

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、片山津温泉観光協会、片山津温泉旅館協同組合、片山津商工振興会



加賀
エリア

加賀市

126

地域文化発信事業

城下町大聖寺歴史と文化の祭典

- 開催日：令和5年11月18日(土)
- 開催会場：(1)磯田道史講演会：加賀市市民会館、(2)『聖城怪談録』とナイトウォーク：大聖寺地区会館



◆ 実施状況

城下町大聖寺の歴史やそこで生活していた人々の生活文化について、人気歴史学者である磯田道史さんによる講演会のほか、江戸時代より大聖寺に伝わる藩士たちが語った不思議な体験談や怪談話を集めた『聖城怪談録』とナイトウォークを開催しました。

講演会では「城下町大聖寺で歴史と文化を語る」と題し、大聖寺藩史を紐解きながら藩の成り立ちや内情、藩主の家系や人柄など、多くのエピソードを交えながらユーモアに溢れたお話をいただき、参加者からも改めて地元を再発見する良い機会となったとの声をいただきました。

『聖城怪談録』とナイトウォークでは、落語家の月亭方気さんに怪談を披露いただき、その後のナイトウォークでは、あいにくの天候のため室内開催に変更となりましたが、事前に撮った映像を映写しながら地域の語り部の皆様に現在の町並みになぞらえながら当時の大聖寺での怪談を解説いただきました。

【プログラム】

- 第1部 磯田道史講演会
加賀市市民会館 14:00～15:00
- 第2部 『聖城怪談録』とナイトウォーク
大聖寺地区会館 18:00～19:30

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、大聖寺まちづくり推進協議会、大聖寺文化協会

加賀
エリア

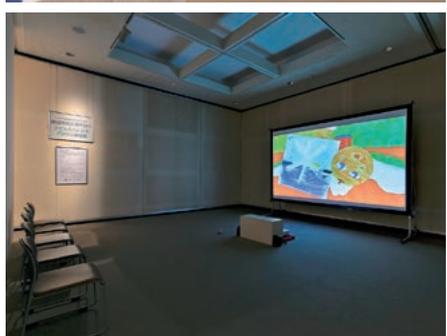
加賀市

127

地域文化発信事業

錦城特別支援学校の子どもたちによるデジタル表現展

- 開催日：令和5年11月22日(水)～11月26日(日)
- 開催会場：加賀市美術館



◆ 実施状況

錦城特別支援学校に通う児童生徒それぞれが加賀市の名産品や身近な風景・自然等をモチーフに、さまざまな色や形の画用紙に絵画を描きました。その中から、同校高等部生徒6名がそれぞれ数点を選び、動画や音楽制作を経て、デジタルアートとして生まれ変わった作品など、全校生徒による作品展を開催しました。

【ワークショップ】

動画及び音楽制作は、高等部生徒6名がコンピュータクラブハウス加賀において、スタッフの協力を得ながら積極的に作業に取り組みました。制作作業中の生徒たちの様子からデジタル機器への理解と興味が高いことがわかり、今後のデジタル制作への可能性が感じられました。

【展示内容】

展示会場では、全校児童生徒の絵画52点の展示と高等部生徒6名によるデジタルアート作品の上映を行い、多くの来場者に楽しんで観ていただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会

128

地域文化発信事業

山代あいうえお五十音図伝

- 開催日：令和5年11月23日(木・祝)
- 開催会場：加賀市文化会館 大ホール

加賀
エリア

加賀市



◆実施状況

日本語の「音(おん)」の基本となる「五十音図」は、平安時代後期に山代温泉薬王院温泉寺の住職 明覚上人によって作られたと言われています。

「あいうえお 五十音図」はいかにして生まれたのか、その誕生を描いたドラマを俳優の渡辺裕太さんが地元の山代大田楽団員や中学生、加賀市民の出演者とともに、朗読劇で繰り広げました。

公演の冒頭には、大東文化大学中国文学科の山口謠司教授が、「あいうえおの誕生の話」と題し、「あいうえおと明覚と山代温泉」の関係性を分かりやすく解説しました。

朗読劇のファイナルでは、「あいうえおボード」を使ったあいうえおの歌を、地元のチアグループ「SPARKLE」のダンスとともに、総キャストで合唱し、大盛り上がりうちに、約90分にわたる公演の幕を閉じました。

公演後は、「山口謠司先生・明覚役の渡辺裕太さん・演出美術音響担当の和田啓さん」によるアフタートークを行い、朗読劇の苦労話などを楽しく語っていただきました。

なお、朗読劇公演に先立って、約40分間、SPARKLEのステージを行い、元気のあるキラのあるダンスで会場を盛り上げていただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、一般社団法人山代温泉観光協会

129

文化団体事業

連句の祭典

- 開催日：令和5年10月29日(日)
- 開催会場：加賀市市民会館

加賀
エリア

加賀市



◆実施状況

「加賀の湯処に芭蕉の足跡を偲ぶ」をサブテーマに、全国の連句愛好家が集い、船主集落の残る橋立町、芭蕉が訪れた山中温泉など、その歴史や文化に触れながら、交流を深めました。

本祭典では、全国及び海外から一般の部594巻、ジュニアの部39巻、合計633巻の応募があり、その中より選ばれた入賞作品の表彰式及び実作会を行いました。

実作会には、全国から100名を超える参加があり、20座に分かれ、加賀市の情景も作品に織り交ぜながら、連句作品を完成させました。

今回の祭典を通じて、多くの加賀市民にも連句の魅力を知ってもらう機会となり、今後の普及に手ごたえを感じました。

※文部科学大臣賞受賞作品はP143を参照

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、加賀市、加賀市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023加賀市実行委員会、一般社団法人日本連句協会



地域文化発信事業 白山ミュージアムサーキット 市立博物館

130 特別展「白山への道～白山下山仏と禅定道～」

●開催日：令和5年10月7日(土)～11月19日(日)
●開催会場：白山市立博物館(展覧会・ギャラリートーク)、松任文化会館ピーノ(講演会・シンポジウム)

加賀エリア
白山市



◆実施状況

「白山ミュージアムサーキット」と題して、白山市立博物館、千代女の里俳句館、松任中川一政記念美術館が合同でそれぞれの館の特徴ある展示を実施しました。

「白山市立博物館」では、白山下山仏といわれる明治初期に神仏分離で白山を下山した仏像やその下山処理に関する記録、白山の世界観を描いた白山曼荼羅等を紹介する展覧会を開催しました。白山関係の資料37点を展示し、白山の歴史や文化を再認識する機会となりました。

また、ギャラリートーク(11月3日)も行い、白山禅定道をはじめ、白山曼荼羅等の文化財等を解説しました。



【講演会・シンポジウム】(11月3日 松任文化会館ピーノ)
テーマ「白山下山仏」

講演会では奈良国立博物館主任研究員山口隆介さんが白山下山仏のひとつである尾添区の木造阿弥陀如来立像の保存修理で得られた知見を紹介し、最新の研究成果を聞くことができました。続くシンポジウムでは、白山下山仏を保存してこられた方々や文化財保護に携わる研究者が白山下山仏の現状と課題について語り合い、保存・公開・活用の未来に向けて討論しました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

地域文化発信事業 白山ミュージアムサーキット 千代女の里俳句館

131 企画展「西のぼるが描く美のかたち」

●開催日：令和5年10月7日(土)～11月26日(日)
●開催会場：白山市立千代女の里俳句館

加賀エリア
白山市



◆実施状況

「千代女の里俳句館」では、挿絵画家の第一人者で白山市の芸術文化アドバイザーでもある西のぼるさんの作品の展覧会を開催しました。

西さんは、本市が誇る江戸時代の女流俳人加賀の千代女に係る作品を数多く手掛けており、本展覧会では、千代女の里俳句館の収蔵品の中から、選りすぐりの作品を展示し、千代女とその俳句の魅力を紹介しました。

さらに、近年制作した作品や、本展のための描き下ろし作品を、西さんの随想と合わせて展示しました。これらは新型コロナウイルス感染症による社会の変化や、世界で起こっている紛争の報道などを受けて生み出された作品となっており、「挿絵画家」とは一線を画す、西のぼるの世界をお伝えするものとなりました。



また、会期中に西さんと、同じ珠洲市出身で、石川県俳文学協会会長である俳人中川雅雪さんとの対談を開催し、約50名の方々に聴講いただきました。参加者からは、「内容に感銘を受けた」「人柄がよくわかり楽しかった」など、多数の感想をいただきました。

- 【展示内容】
- ①西のぼるが描く千代女 17点
 - ②美のかたち 16点
 - ③心のプリズム 12点
 - ④西のぼるが描く俳画 4点
 - ⑤飛翔 1点

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会



地域文化発信事業

白山ミュージアムサーキット 松任中川一政記念美術館

132

特別展「生誕130年 中川一政展 百花繚乱 芸術の魅力とその生き方」

- 開催日：令和5年10月7日(土)～11月26日(日)
- 開催会場：松任中川一政記念美術館(展覧会及び関連事業)、千代女の里俳句館(記念講演会)

加賀
エリア

白山市



◆実施状況

「松任中川一政記念美術館」では、白山市ゆかりの画家・中川一政(1893～1991・文化勲章受章者)の作品を紹介する展覧会を開催しました。

中川は、絵画のみならず書や陶芸、挿画や装丁、また詩文や随筆など広範多岐にわたる創作活動を展開し、そのいずれにも一境地を拓いて97歳の生涯を現役で全うしています。

生誕130年を記念する本展では、詩情豊かな初期作から独自の画法を模索する中期作、そして自得し花開いた円熟期作から自分に限界を定めず生み出し続けた晩年作までの作品や関連資料78点を展示し、画業の変遷や創作姿勢、また多彩な芸術の魅力に迫りました。

また、本市の花「あさがお」を題材にした希少な作品も公開し、歳を重ねて力強さを増す作品の数々に、来場者からは生きる勇気もらったとの声が寄せられました。このほか、オープニングコンサートや「0歳からの家族鑑賞会」、「俳句 de 美術館」を開催し、幅広い年齢層にも鑑賞していただきました。

【記念講演会】(10月22日 千代女の里俳句館)

「書のデフォルマシオンー中川一政の眼差しー」

講師：根本知(書家・書道学博士)

書の長い歴史の上に中川の書を位置付け、その魅力が鮮やかに紐解かれ、参加者が熱心に聞き入る姿が見られました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

133

地域文化発信事業

伝統文化の源を辿る体験ツアー

- 開催日：令和5年10月14日(土)、11月10日(金)
- 開催会場：白山市内

加賀
エリア

白山市



◆実施状況

「白山手取川ジオパーク」が令和5年5月にユネスコ世界ジオパークに認定されたことを記念し、大地(ジオ)と伝統文化の関係性について体感し、理解を深める2つのツアーを実施しました。

【ジオ博士と行く、どっぷりはまる化石ツアー】

○実施日 10月14日 参加者20名

白山手取川ジオパークをよく知るジオ博士とともに、代表的な地質遺産である桑島化石壁のほか、ジオパークの見どころである綿ヶ滝や百万貫の岩を巡り、大地の成り立ちと歴史を存分に感じていただきました。今回特別に桑島化石壁を間近で観察し、白山恐竜パーク白峰では実際に化石発掘を体験いただくなど、楽しみながら学べるツアーとなりました。

【白峰の里山から世界へつながる美の伝統】

○実施日 11月10日 参加者39名

国の伝統工芸品に指定されている牛首紬の現存する2つの工房を訪れ、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている白峰の街並みを公認観光ガイドと共に散策しました。参加者は牛首紬や伝統文化に関心のある方が多く、工房では職人の話に熱心に耳を傾けていました。実際に機織りを体験したり、地域の風土と伝統文化の結びつきを学ぶ中で、より深く牛首紬の魅力に触れることができました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会



地域文化発信事業

134 つながるダンスフェス

●開催日：令和5年10月15日(日)
●開催会場：松任総合運動公園体育館

加賀エリア
白山市



◆実施状況

ダンス作品を通じて、障害への理解を深め、障害のある人の自立と社会参加の促進を図るため「障害のある人もない人もすべての人がダンスで笑顔に」と掲げたダンスフェスを開催しました。約7,000名の方々が来場され、白杖ダンサー・森仁志さんなどが繰り広げた躍動感あふれる本格的なダンスブレイクにくぎ付けとなりました。

また、参加者はプロからダンスを学び、一緒に体を動かし、ダンスを心身共に楽しみ、大盛況のうちに終えることができました。

トークセッションでは、森さんが障害理解を広げる自らの取組やダンスとの関わりなど等身大で語りかけ、身近に存在する障害についての関心・理解が深まる好機となったほか、参加した地元の大学生も笑顔を絶やさず、交流の輪を広げてくれました。

【プログラム】

- 金城大学ダンス部
- ダンスパフォーマンス・トークセッション 森仁志ほかメンバー3名
- ワークショップ
- 会場のみんなでダンスダンスダンス!! 森仁志、金城大学ダンスサークルほか
- 地元障害ダンスチームのダンスパフォーマンス

【出演者】森仁志ほかメンバー

【出演団体】金城大学ダンス部、障害福祉事業所ダンス2チーム
(福)B'sエンジョイダンスチーム (福)松の実園 「ぴのり」

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

地域文化発信事業

135 文弥節人形浄瑠璃の祭典

●開催日：令和5年10月21日(土)～10月22日(日)
●開催会場：白山市鶴来総合文化会館クレイン

加賀エリア
白山市



◆実施状況

全国で鹿児島県・宮崎県・新潟県・石川県の4県だけに伝承され、国の重要無形民俗文化財に指定されている文弥節人形浄瑠璃が各地の保存会による合同公演により披露されました。全国の団体が集う公演は、平成27年の「国民文化祭・かごしま2015」以来、8年ぶりとなり、各県によって違う所作などを見比べて楽しむことができる貴重な機会となりました。

公演のほかにも、文弥人形の仕様や操り方などの解説や、各保存会の代表者によるシンポジウムも開催するなど、貴重な郷土芸能の魅力を広く発信できました。

10月21日

【第1部】白山市の文弥人形浄瑠璃公演
【第2部】人形の魅力解説とワークショップ
解説 塚田千恵美((公財)現代人形劇センター理事長)

10月22日

【第1部】シンポジウム「文弥節人形浄瑠璃の歴史と継承」
コーディネーター
和田修(早稲田大学大学院准教授)

パネリスト

各保存会代表者・塚田千恵美
【第2部】「文弥節人形浄瑠璃公演」
深瀬でくまわし保存会(白山市)、東郷文弥節人形浄瑠璃保存会(鹿児島県薩摩川内市)、山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会(宮崎県都城市)、佐渡人形芝居保存会真明座(新潟県佐渡市)、東二口文弥人形浄瑠璃保存会(白山市)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

136

地域文化発信事業

こびとづかんワールドへようこそ

- 開催日：令和5年11月3日(金・祝)
- 開催会場：松任総合運動公園体育館及びその周辺

加賀
エリア

白山市



◆実施状況

「こびとづかん」の作者である白山市出身のイラストレーター兼こびと研究家の「なばたとしたか」さんとの触れ合いの中で、子ども達が造形や絵などから創造する(新しいものを生み出す)ことの楽しさや大切さを学びました。

会場内では、なばたさんのこびとのトークショーをはじめ、折り紙のワークショップ、パネル展やサイン会などを実施し、イベントでは、県内のみならず県外からも多くの子ども達が訪れ、こびとの話を見聞きし、創造力を高めるとともに、こびとの触れ合いを楽しむ姿が数多くみられました。

また、屋外では173組526名の方が会場内に隠れた10人のこびとを探すウォークラリーに参加し、秋晴れの中こびと探しを楽しみました。

今回のイベント参加者の中には、なばたさんやこびとの触れ合いを楽しむため、初めて石川県を訪れたという子ども達も多く、石川の文化、魅力を知るきっかけとなったとの意見もありました。

【プログラム】

- トークショー
- ワークショップ
- サイン会
- こびとパネル展
- こびと劇場上映会
- こびと探しウォークラリー

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

137

地域文化発信事業

和太鼓シンポジウム 次世代に太鼓の歴史と文化をつなぐ

- 開催日：令和5年11月4日(土)
- 開催会場：松任文化会館ピーノ

加賀
エリア

白山市



◆実施状況

「太鼓の里 白山」として、多くの市民が様々な形で太鼓に親しんでいる中、和太鼓の歴史や文化に触れるシンポジウムを開催しました。

最初に、和太鼓演奏の第一人者である林英哲さんによる基調講演を行い、過去から現在までの太鼓演奏の道のり、そして表現の可能性と歴史的な太鼓文化との対比についてお話いただきました。

その後、民俗学・経済学・芸術学・伝統産業の分野で活躍の4名の講師陣によるパネルディスカッションを行い、人類の歴史とともに進化し続ける太鼓は、現代までどのような経緯をたどり伝承されてきたのか、将来に向けてどのような形で継承・発展させていくのかについて討論を行いました。

最後に、翌日開催の白山国際太鼓エクスタジア2023のリハーサルの一部を特別に見学し、力強い和太鼓演奏の迫力を参加者に体感していただきました。

<基調講演> 講師：林英哲(和太鼓奏者)

<パネルディスカッション>

パネリスト：小林忠雄(文学博士・加能民俗の会会長)

佐々木雅幸(経済学博士)

茂木仁史(芸術学博士)

浅野昭利(白山市文化協会会長)

コーディネーター：小野美枝子((一財)浅野太鼓文化研究所)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会



地域文化発信事業

138 霊峰白山の風土が育んだ伝統文化と食文化 白山市の伝統工芸展

●開催日：令和5年11月18日(土)～11月19日(日)
●開催会場：松任学習センタープララ

加賀エリア
白山市



◆実施状況

霊峰白山の風土と人々の暮らしの中で生まれ、受け継がれてきた8つの伝統工芸(牛首紬・加賀繻・檜細工・美川仏壇・加賀獅子頭・太鼓・鶴来打刃物・こつら細工)の作品展示のほか、牛首紬のコースター制作や檜細工のストラップ制作などの体験会を実施し、伝統工芸の魅力を発信しました。

また、獅子舞と和太鼓の実演と体験会も行い、郷土の伝統芸能の魅力もあわせて体感していただきました。さらに、牛首紬をテーマとした対談を行い、元エルメスデザイナーの寺西さんと牛首紬生産者の西山さんが紬の新たな取り組みを紹介したほか、牛首紬の伝統技術とラグジュアリーな洋装の世界を繋ぐ寺西さんがデザインしディレクションした牛首紬のファッションショーが観客を魅了しました。

このほか洋装仕立ての牛首紬を羽織る体験コーナーも設け、参加者は貴重な体験により、洋装の牛首紬に魅せられ感動していました。

【出展者】

<白山市の伝統工芸展>白山市伝統産業振興協会

【出演者・出演団体】

<対談とファッションショー>寺西俊輔(株MIZEN)、西山博之(西山産業開発株)、モデル4名

<獅子舞・和太鼓実演、飛び入り体験>平木町獅子舞保存会(松任獅子舞連盟)、焱太鼓((一財)浅野太鼓文化研究所)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

地域文化発信事業

139 霊峰白山の風土が育んだ伝統文化と食文化 発酵食と和菓子の共演

●開催日：令和5年11月18日(土)～11月19日(日)
●開催会場：千代女の里俳句館

加賀エリア
白山市



◆実施状況

白山市内の企業や高校生が考案した発酵食品を使った和菓子を紹介するイベントを開催しました。

「ふぐの子サブレ」や甘酒を使用して作った白玉、高校生が開発した和菓子などが抹茶や煎茶とともに提供され、参加者は世代を超えた交流を通し、白山の食文化の魅力を体感し、学ぶ機会となりました。

【プログラム①】市内学生の取り組みや食に関するパネル展示

【プログラム②】ご縁つながる和菓子味わい茶会

【プログラム③】発酵食をテーマに企画した和菓子の発表会

【プログラム④】和菓子づくり体験教室

【プログラム⑤】特別展示を巡るまち歩きジオツアープラス

【出演者】

白山市茶道協会、株式会社圓八、石川県立翠星高等学校、かなざわ食マネジメント専門職大学、白山市観光連盟登録ガイド

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会

140

文化団体事業

お香の祭典

- 開催日：令和5年11月4日(土)～11月5日(日)
- 開催会場：松任ふるさと館

加賀
エリア

白山市



◆実施状況

茶道・華道とともに日本の三大芸道といわれる「香道」を体験できるイベントを開催しました。

「お香席体験」では、香道の2大流派の宗家・家元直々の指導により、組香席を体験しました。1日目は御家流三條西宗家により組香「白山香」が、2日目は志野流蜂谷家元により組香「三夕香」が開かれました。初心者から経験者まで熱心に取り組み、所作を真似ながら香りを「聞いて」いました。

「一炷聞香体験」では、特に有名な伽羅をはじめ、日本人が古来より愛してきた様々な香木の香りを聞いていただき、「お香の話」では、公益財団法人お香の会の理事である薬師寺副住職生駒基達師による、香道の成立ち、香木の種類、佛教とお香との関わりなど、お香にまつわる話に、参加者は興味深く聞いていました。

「文香づくり」では、難しい折り紙に挑戦し、完成した文香をお土産に持ち帰っていただき、好評を得ました。

そのほか、珍しい香道具の展示や香道の歴史を紹介したパネル展示などを行い、石川ではなかなか接する機会が少ない「香道」の世界に多くの参加者が関心を寄せ、大きな反響を呼びました。

また、白山市文化協会の茶道、華道関係者によるお茶とお花によるおもてなしで、会場を華やかに、また大いに盛り上げていただきました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、白山市、白山市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023白山市実行委員会、公益財団法人お香の会

141

地域文化発信事業

加賀立国能美誕生1200年記念・能美古墳群国史跡指定10周年記念 古墳シンポジウム及びアート演出

- 開催日：令和5年10月14日(土) (アート演出のみ10月15日まで)
- 開催会場：古墳シンポジウム：辰口福祉会館 アート演出：ふるさと歴史の広場周辺

加賀
エリア

能美市



◆実施状況

古墳シンポジウムでは、「加賀の国生みと能美古墳群」と題し、3名の有識者や古墳研究者をお招きし、能美古墳群にまつわるお話をしていただきました。国指定史跡能美古墳群の新たな視点や歴史的評価が行われ、能美の歴史を深く知る機会となり、能美市内を中心に県外を含めた172名が参加されました。

アート演出では、加賀立国能美誕生1200年を記念し、1,600個のキャンドルの灯りとライトバルーンの光で幻想的な空間を作り、参加者とともに加賀立国および能美誕生を祝いました。さらに、誕生1200年のオリジナルマークや市応援大使のイラスト、オリジナルARフォトフレームを楽しみました。

【古墳シンポジウムプログラム】

基調報告「加賀立国と能美古墳群」

石川考古学研究会副会長 河村好光

記念講演「能美古墳群からみた倭の王権と東アジア-加賀立国1200年によせて-」

国立歴史民俗博物館教授 松木武彦

報告「倭王権からみた能美古墳群」

堺市博物館 橘泉

ディスカッション 河村好光・松木武彦・橘泉・井出敏朗(能美市長)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会



地域文化発信事業

142 障がいのある人たちの内なる感性に触れる“ディスカバリーアート”展

加賀エリア
能美市

●開催日：令和5年10月14日(土)～10月29日(日)
●開催会場：根上総合文化会館、能美ふるさとミュージアム、KAM能美市九谷焼美術館 | 五彩館 |



◆実施状況

障がいのある人または障がいのある人を含む団体が制作したアート作品を、その内なる感性に触れる芸術“ディスカバリーアート”と名付け、全国から応募があった135点の作品を展示しました。また、この中から審査のうえ入賞した16点の作品をグッズ化して販売も行いました。

多くの方に気軽に足を運んでいただけるよう、根上総合文化会館(10月14日～20日)と能美ふるさとミュージアム(10月21日～29日)の市内2会場で展示を行いました。また、県外に向けて、特設サイト・クラウド美術館を開設し、応募作品すべてを閲覧できるようにしました。

会期中、1,004名の方々にご来場いただき、「障がいのある人の感性に感動した」「自分自身の気持ちが落ち込んでいた時に元気づけられた」といった声や、「常時展示する場所があったらいい」といった作品を発表する場の創出に期待を寄せる声もありました。

【関連イベント「九谷焼転写シールのワークショップ」】

10月14日、15日 KAM能美市九谷焼美術館 | 五彩館 |

子どもから大人まで、一枚のお皿に全国から応募があったお気に入りのディスカバリーアートの転写シールを貼りつけ、オリジナルの九谷焼を作成しました。2日間で計26名が参加し、ディスカバリーアートの魅力や価値を認識していただく機会となりました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会

地域文化発信事業

143 九谷体験ツアー（九谷焼まみれ）

加賀エリア
能美市

●開催日：令和5年10月21日(土)～11月26日(日) 毎週土日(計6回)
●開催会場：KAM能美市九谷焼美術館、九谷陶芸村、株式会社宮本酒造店、陶房武腰、伴製陶所、ウェルネスハウスSARAIほか



◆実施状況

能美市の伝統工芸「九谷焼」の歴史や制作工程が体験できる2日間のツアーで、「1泊2日プラン」に加え、「土日宿泊無しコース」、「日曜日のみ日帰りコース」を用意しました。参加者一人一人がゆとりをもって体験でき、高い満足度を得ることができました。

【プログラム】

1日目(土曜日)は、見学を中心とした内容で、KAM能美市九谷焼美術館を学芸員の解説付きで鑑賞し、九谷陶芸村のシンボルでもある「九谷焼ビッグモニュメント」の内部を見学しました。その後、株式会社宮本酒造店にて酒造ツアーを行い、酒造店所蔵の九谷焼コレクションも併せて鑑賞しました。

2日目(日曜日)は、体験を中心とした内容で、陶房武腰または伴製陶所で作陶体験(てびねり)を行い、花器や皿、深鉢、プレートなど思い思いの作品を作りました。昼食時にはウェルネスハウスSARAIで九谷焼の器に地元食材を使った料理を味わい、施設内の若手九谷焼作家がプロデュースした宿泊部屋の見学を楽しみました。さらに、KAM能美市九谷焼美術館 | 体験館 | で、能美市を代表する九谷焼作家を講師に招き、作家がデザインした図案を皿に写し、和絵具で色をつけるなどの絵付け体験を行いました。細い線の書き方や色の塗り方などを、作家本人から直接指導していただくことができ、参加者からは「貴重な体験になった」などの感想が寄せられました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会、KAM能美市九谷焼美術館、公益財団法人能美市ふるさと振興公社、石川県陶磁器商工業協同組合

144

地域文化発信事業

全国古墳写真展

- 開催日：令和5年11月3日(金・祝)～11月26日(日)
- 開催会場：能美ふるさとミュージアム

加賀
エリア

能美市



◆実施状況

加賀立国能美誕生1200年、能美古墳群国史跡指定10周年を記念して、全国から古墳の写真を集めた展覧会を開催し、応募者の思い出や地域の風景とともに古墳の魅力を広く発信しました。

県内外の10歳から89歳までの方から、古墳への思いがこもった55点の力作が集まり、写真家や考古学の専門家等による厳正な審査の結果、入賞作品8作品を選出し、11月3日に表彰式を行いました。

この入賞作品を含め、全ての応募作品を本展覧会で展示し、期間中、2,026名の方々に来場いただきました。

撮影された古墳は41カ所に及び、「能美市以外の古墳の写真もたくさんあり、きれいだっ」「この写真展をきっかけに初めて能美市に来た」などの声をいただき、様々な姿を見せてくれる全国各地の古墳への関心を高める良い機会となりました。

【表彰】

最優秀賞 熊田泰士(小松市)

加賀立国能美誕生1200年記念イベント実行委員長賞 石井守彦(埼玉県)

優秀賞 横内清嵩(奈良県)

審査員特別賞 平野昌子(神奈川県)、栗田知典(愛知県)

ジュニア賞 板東郁仁(岡山県) ユーモア賞 板東恭子(岡山県)

能美ふるさとミュージアム賞 池見藍(能美市)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会

145

地域文化発信事業

Art Project for SDGs

- 開催日：令和5年11月8日(水)～11月12日(日)
- 開催会場：根上総合文化会館

加賀
エリア

能美市



◆実施状況

アーティスト・淀川テクニクさん監修のもと、能美市内3中学校の美術部員が地元の海岸に捨てられ、流れ着いた海洋ゴミを使い、様々な色のプラスチックごみを組み合わせた大作(縦1.5m、横1.8m)となるアート作品を制作し、金沢学院大学生が制作過程を撮影したドキュメンタリー映像などとともに展示しました。

制作した作品は、未来に残したい能美市の美しい自然をテーマに、白山やトキ、ハマナスなどが描かれており、地元中学生の思いが詰まった作品に多くの来場者が今後の行動変容など、環境やSDGsについて考える良い機会となりました。

また、淀川テクニクさん指導のもと、海洋ゴミを使って自分だけのオリジナル作品を作るワークショップも開催し、豊かな発想でゴミの形を活かした様々な作品が作られ、参加者は楽しみながらSDGsを学びました。

【展示内容】

- 市内中学校美術部員と淀川テクニクさんが制作したゴミアート
- 金沢学院大学生による制作過程や地元海岸のゴミ問題の映像
- 石川県立寺井高等学校美術部員が制作したゴミアート
- 能美市や市内小中学校のSDGsの取り組み紹介等のパネル
- 淀川テクニク作品展

【ワークショップ】

「ゴミジナル工作[®]」11月11日(土)、12日(日)

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会



地域文化発信事業

146 GAP FREE パフォーマンス

加賀 エリア
能美市

● 開催日：令和5年11月12日(日)
● 開催会場：根上総合文化会館



◆ 実施状況

全国から出演者を募り、障がいによる「GAP= みぞ」が「FREE= ない」関係性を目指した「GAP FREE パフォーマンス」と、「手話」を1つの表現としてダンスに取り入れた「手話ダンスパフォーマンス」の作品を上演しました。

重度の障がいのある人の映像や声を演出に取り入れることで、より多様な形での参加を実現しました。

また、来場することが難しい方にもご覧いただけるよう、特設サイトにてアーカイブ動画を配信いたしました。

※ GAP FREEとは

平成29年に能美市観光大使である振付家・ダンサーの宝栄美希さんが提唱された、障がいの有無・年齢・性別・国籍などに関わらず、ステージ上では全ての人々が対等な立場となり、出演者みんなで助け合いながら舞台を作る取り組みです。

【出演者】

- GAP FREE 部門 16名(うち障がいのある人8名)
- 手話ダンス部門 21名(うち障がいのある人2名)
- (ゲスト出演団体)
- 「みんなで舞台に立とう」を広げる会 17名
- いしかわズービック 11名

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会

地域文化発信事業

147 国際交流ひろば

加賀 エリア
能美市

● 開催日：令和5年11月23日(木・祝)
● 開催会場：根上総合文化会館、根上学習センター(世界の料理体験のみ)



◆ 実施状況

外国人人口の比率が県内で最も高い能美市において、市内在住の外国人との交流を中心に、楽しみながら世界とのつながりを感じることができる国際交流イベントを開催しました。

世界の音楽ステージや文化体験、屋台など、多岐にわたり外国の文化・食に触れることができ、相互理解を深める1日となりました。

また、世界のパフォーマンスとして、ブラジル音楽家で能美市観光大使の加々美淳さんによるスペシャルステージも開催され、多くの観客を魅了しました。

初開催となる世界の料理体験では、3カ国(ベトナム、パキスタン、タイ)の料理をその国出身の外国人の方が講師となり教え、多くの参加者が楽しみながら体験をしました。

ボランティアも多数集まり、運営面でも国際交流・異文化理解の促進につながりました。

【プログラム】

世界のパフォーマンス、世界のファッションショー、世界の屋台、世界の料理体験、各国紹介ブース、世界の絵本読み聞かせ、世界のワークショップ、サッカー交流

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、能美市、能美市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023能美市実行委員会、国際交流ひろば実行委員会(能美市国際交流協会、能美市日中友好協会、能美市ユレホフ親善協会、NPO法人YOU-I、能美市観光交流課)

地域文化発信事業

148

みんなのアート展 ～創る・描く・想う～

- 開催日：令和5年10月14日(土)～10月22日(日)、11月2日(木)～11月26日(日)
- 開催会場：学びの社のいちカレード

加賀
エリア

野々市市



◆実施状況

大会会期中、2期に分けて、障害の有無によらない作品を募った公募展・障害者作品展(10月14日～22日)と椿絵の名作による特別企画展(11月2日～26日)を開催しました。

第1期では、石川県立明和特別支援学校と野々市市美術文化協会のコラボレーション大作『メイシーのおうち』が目玉作品として展示しました。メイシーは、明和特別支援学校の校木“椎の木”の妖精として考案された同校のマスコットキャラクターで、製作にあたっては全校児童生徒がアイデアを出し、作業に携わり、箔が煌めく絢爛豪華な工芸的文化的要素を取り入れた立体作品となりました。

また、公募展では、野々市市長賞(最高賞)に、洋画から西村加苗さんの『虹が立つ』が選ばれ、キャンバスに描かれた虹色に輝く鯉は、本文化祭の華やかなイメージそのものを象徴するような作品で、来場者の目を引きました。

第2期は、本市の市花木のツバキをテーマに、あいおいニッセイ同和損保コレクション展『椿、咲く』を開催しました。尾形光琳や北大路魯山人、岸田劉生、竹久夢二などの巨匠たちが描く選りすぐりの名品全48点が会場を彩りました。

また、金沢美術工芸大学日本画修了生7人(セブン)展『椿とともに』も開催し、大迫力の花鳥画をメインに全16点が展示され、会期中、作家によるギャラリートークを2回行い、延べ110名の参加者が作品に込められた想いとともに鑑賞しました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、野々市市、野々市市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023野々市市実行委員会

地域文化発信事業

149

BIG APPLE in NONOICHI 2023

- 開催日：令和5年10月29日(日)/11月18日(土)～11月19日(日)
- 開催会場：にぎわいの里のいちカミノ/野々市市文化会館フォルテ

加賀
エリア

野々市市



◆実施状況

ニューヨークや国内のトップクラスのジャズミュージシャンが野々市に集結し、ワークショップやコンサートを通じて、ジャズの魅力を発信しました。

10月29日のイベントでは、身体全体で楽しめるニューオーリンズスタイルのジャズバンドによるライブを楽しんでもらいました。普段ジャズになじみがない世代も集まり、幅広い客層が参加しました。

11月18日には、アーティストが直接指導するワークショップを開催しました。プロ・アマ問わず、全国各地から受講者が集まり、ジュリアード音楽院で教鞭をとるドナルド・ベガさんをはじめとした出演者から直接手ほどきを受けました。関東屈指のジャズ名門校の大学生コンボや、地元大学のジャズ研選抜コンボの学生らが、この貴重な機会を逃すまいと、出演者の指導に演奏で一心に専らしていました。

11月19日のコンサートでは、“一日中ジャズを!”をテーマに、コンサート開演2時間前から会館内の様々な場所でライブが繰り広げられました。特にワークショップを受講した大学生によるライブは、よりブラッシュアップされた演奏で多くのジャズファンを唸らせていました。

大ホールでのコンサートでは、ジャズの聖地ニューヨークさながらの圧巻のパフォーマンスが披露され、本場のサウンドを目の当たりにした観客は息を飲んで聴き入っていました。

例年に比べ、初参加の方が多く、ジャズのファン層の拡大にもつながりました。

主催

文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、野々市市、野々市市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023野々市市実行委員会、公益財団法人野々市市情報文化振興財団



地域文化発信事業

150 IKERU NONOICHI 2023

● 開催日：令和5年11月3日(金・祝)～11月12日(日) ※プレイベント含む
● 開催会場：国指定重要文化財 喜多家住宅、野々市市郷土資料館 NoNo

加賀エリア
野々市市



◆ 実施状況

「北国街道・野々市を IKERU (生ける・活ける・いける)」をコンセプトに、展覧会やアートとコラボした茶会など、多彩なイベントを実施しました。

国指定重要文化財喜多家住宅を会場に、金沢美術工芸大学日本画専攻と連携した日本画展示とフラワーアート「ノノイチ(野の位置)から」を実施しました。

日本画の配置に加えて、市花木の椿を主軸とした花々とのコラボレーションも好評で、喜多家住宅・日本画・花々が互いに引き立て合う展示空間となりました。

約 1,400 名の方々に来場いただき、旧北国街道沿いの地域資源や歴史文化に光を当てて新たな魅力や価値を引き出し、文化の力による観光の推進に繋がると共に、五感で野々市の魅力に触れていただく契機となりました。

【関連イベント】

- ・11月3日 ののいち茶会
椿の葉を採取してかたどった特製菓子を提供し、チョコレートとともに市の食文化を発信しました。
- ・11月11日 ペアリングイベント
かつて喜多家住宅で醸造され、半世紀ぶりに復刻した日本酒「猩々」とフラワーアート展を楽しんだ後、郷土資料館でお酒と郷土料理、ヴァイオリンとヴィオラの演奏を堪能しました。
- ・11月4日～12日 インスタレーション展示
市出身作家による記憶の蓄積をテーマとしたインスタレーション・映像作品を展示しました。

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、野々市市、野々市市教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023野々市市実行委員会、一般社団法人野々市市観光物産協会、IKERU NONOICHI 実行委員会

地域文化発信事業

151 子ども太鼓の祭典

● 開催日：令和5年11月3日(金・祝)
● 開催会場：サンアリーナ川北

加賀エリア
川北町



◆ 実施状況

県内外9つの子ども太鼓団体を迎え、障害のある人もない人も参加する、勇壮な太鼓が響きあふれる祭典を行いました。

オープニングは、「手取亢龍太鼓 チーム中島」の小学生20名による小学校オリジナルの虫送り太鼓の曲で幕を開け、特別支援学校の部員とOBで作る2団体が息の合った演奏を披露した後、県外の実力のある2団体による独自の技法による迫力満点のパフォーマンスにより、会場は魅せられました。

後半に入る前に、団体交流会を行い、各団体が日頃の練習の様子や苦労話などを意見交換し、親睦を深めた後、県内4団体が九谷焼のプロセスや手取川で鮎が跳ねる様子等それぞれが趣向を凝らし、迫力のある演奏を披露しました。フィナーレは、手取亢龍太鼓保存会の安江さんにより作曲された「加能の響き」を打ち手約50名による合同パフォーマンスで披露し、力強い壮大な和太鼓の音色が観客の心に響き渡りました。

【出演団体】

手取亢龍太鼓 チーム中島(川北町)、龍剣太鼓OB会(野々市市)、DRUM 輪(和歌山県)、越中いさみ太鼓保存会 春蘭(富山県)、信濃国松川響岳太鼓子供会(長野県)、鶴来高校 和太鼓部(白山市)、出城虫送り太鼓保存会 蛍心(白山市)、九谷太鼓若獅子組(能美市)、手取亢龍若鮎組(川北町)

主催 文化庁、厚生労働省、石川県、石川県教育委員会、川北町、川北町教育委員会、いしかわ百万石文化祭2023実行委員会、いしかわ百万石文化祭2023川北町実行委員会